

ネパールのともだち



ねん くみ ()

トモヤは、ネパールのともだちシバのいえにやってきました。

「いっしょにごはんをたべようよ。」

シバにさそわれて、おひるごはんをいただくことにしました。

「おはしは、どこ？」

「ないよ。ぼくのいえは、てでたべるんだ。」

シバは、てでごはんをすくうと、きょうにたべてみせました。

「すごいな。」

「みぎてをシャベルみたいなかたちにするんだ。シャベルとおやゆびでりょうりをつかむ。ゆびのうえにのせて、はこぶんだよ。トモヤも、やってみなよ。」

「やった。できたよ。」

「こういうのを、『てしょく』っていうんだ。」

トモヤは、あたらしいことができてうれしく感じました。そのひのばんごはんでは、トモヤはいえでも『てしょく』をやってみました。すると、おかあさんがびっくりしました。

「やめなさい！なに、おげひんなことをしているの！」

「これは『てしょく』だよ。きょう、シバにおしえてもらったんだ。」

「ここはにほんなんだから、ダメ。やめなさい。」

どうしてダメなの？

げひんじゃないのに。

トモヤはふしぎでなりませんでした。



トモヤは『てしょく』をやめるべきでしょうか。あなたのかんがえとりょうをかきましょう。

.....
.....

はなしあってかんがえたことをかきましょう。

.....
.....